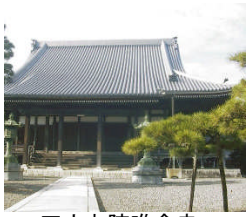
街道を歩く

中山道：高宮−葛籠（つづら）−豊郷(下枝)

朝鮮通信使街道：日夏−八幡橋（愛知川）



四十九院唯念寺

荒神山遠望

荒神山神社　ほむすび
祭神　火産霊神(火の神)
奥津日子神、奥津比売神（炊事の神）
標高263m頂上に神社があり火の神様、竈の神が祀られている。古くは奥山寺と言われる。秀吉寄進の石灯篭残る
江戸時代彦根藩の尊崇が厚かった

荒神山
神社
奥山寺
道標
天満神社
天満橋
日夏
日夏中沢
園芸センター
道標
荒神山への道標
清崎町
山崎山
宇曽川
國昌寺
稲里町
金田町
稲部町
彦富町
JR稲枝駅
稲枝町
上稲葉
八幡橋
愛知川

豊会館
藤野喜兵衛旧宅跡
喜兵衛は20歳の時北海道松前に渡り呉服屋を始めたが余市に漁場を開き”又十”商号で活躍、藤野の基礎築く
高田屋嘉平衛と提携し廻船事業にのりだし豪商となる。”あけぼの印”缶詰創業
屋敷は2代目西郎兵衛が天保飢きんのとき窮民救済として建てる

阿自岐神社（祭神味耜高彦根神他4神）
百済の渡来人阿自岐氏が応神天皇の時代この地を開き祖神を祭る
社域の大部分は阿自岐氏の邸宅跡と云う
池泉多島式庭園は日本最古といわれる
那須与一の矢がささり水が湧き出たといわれる”矢池”がある
本殿は三間社流造り、江戸初期の建物

忠兵衛記念館

伊藤忠兵衛屋敷跡
伊藤忠、丸紅の創業者忠兵衛の出身地
天保13年(1842)繊維品小売業”紅長”の家に生まれ、近江麻布の行商を始める
明治になって大阪本町に店を構え”紅忠”とした。行商が好調であったので販路を山陽、長崎に拡大。長崎で貿易の刺激を受け貿易にも手を広げる。明治5年”丸紅”を創業

高宮宿（鳥居本宿より1里半）
慶長7年(1602)幕府が高宮を伝馬継所と定めた事に始まる
中山道で石高で鵜沼宿、人口で本庄宿に次ぐ宿であった。
古くから高宮布（麻布）で知られ、近江八幡社の蚊帳と共に重要な産物となり集散地であった。戦国時代には高宮城が市もあったようだ。多賀大社の門前町としても賑わい栄えた。
彦根城にも近く城下と一体化して発展してきた
古代東山道の宿駅があったとされる四十九院が近くにある
（本陣1、脇本陣2、問屋1、旅籠33）

円照寺
高宮氏家臣北川九兵衛建立
家康が夏の陣の帰途寺に立寄り腰掛けたという”腰掛石”。明治天皇が北陸巡幸のとき泊り、”切るに及ばず”と言って残った松”止鑾松”がある

紙子塚
脇本陣跡
ふれあいの館
円照寺
無賃橋地蔵
高宮橋
本陣跡
高宮寺
高宮城跡
大鳥居
高宮駅
法士町
犬上川
若宮八幡宮（産の宮）
つづら葛籠町

高宮寺
奈良時代に行基と婆羅門が当地に伽藍を建てたのが始まりという
弘安2年(1279)一遍智真が遊行の途中この地に立寄った時高宮城主高宮宗忠が一遍の威徳を仰いで一宇を建て高宮寺と改める。織田、浅井の戦いで焼失。
江戸時代彦根藩の庇護を受ける。

出町
アキレス工場
尼子駅
阿自岐神社
安食西
四十九院

産の宮（若宮八幡宮）
南北朝争乱の時足利尊氏の子義詮が近江美濃を平定、京に帰る途中側室がこの辺りで出産。家臣9人が残り介護するが死亡、生母は悲しみの余り尼になる。
この地に残った家臣は竹や藤つるで葛籠(ツヅラ)を造って生計を立てたという。地名ともなる

唯念寺
天平3年(731)行基がこの地に四十九院を建てる。その1つといわれる
行基の築造といわれる庭園、芙蓉閣と云れる書院、日光東照宮の大棟梁甲良豊後守宗廣の像がある。宗廣は甲良町出身、晩年この寺で過す

唯念寺
先人をしのぶ館
豊郷小学校
丸紅の重役古川鉄次郎が寄付
当時大学ｷｬﾝﾊﾞｽ風で評判となる（昭和12年）
豊郷町
石畑の一里塚
八幡神社
豊郷町役場
石畑
伊藤忠兵衛屋敷跡碑
くれない公園
忠兵衛記念館
高野瀬
豊郷駅
宇曽川
藤野喜兵衛旧宅跡
（豊会館）
下枝
上枝

石畑の一里塚（八幡神社）
この辺りを支配しいた佐々木氏の旗頭
石畑宗信の城址。宗信は那須与一の次男
神社は平安後期宗信が京都の石清水八幡宮の応神天皇分身を奉り建立。近くの称名寺は宗信が晩年出家し建立（1258）